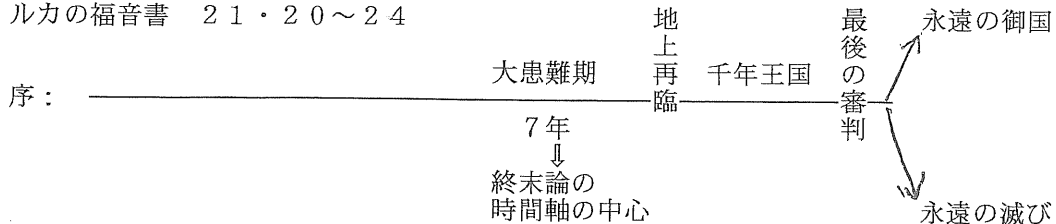


世の終わりのしるし

2025年10月12日

マタイの福音書 24・1～8
ルカの福音書 21・20～24



大患難期の前に起こること

(1) (時系列)

★①世界戦争

②イスラエルが国家として再建（離散している地から帰還）

③ユダヤ人のエルサレム奪還・統治

④北からの数ヶ国の連合軍がエルサレムに侵攻

⑤世界統一政府の出現

⑥十の王国（世界統一政府が分裂）

⑦反キリストの台頭

⑧一時的な平和と安全（⑥と⑦が進行中）

⑨反キリストとイスラエルの7年の契約（大患難時代のはじまり）

(2) (どの段階で起こるか不明)

①暗黒（第一回目、全部で5回）

②エリヤの到来（メシア再臨の備え）

③第三神殿

④教会の携挙

⑤キリストの御座のさばき（携挙された信者への報奨）

⑥キリストと教会との婚姻

⑤⑥は④の結果

マタイの福音書 24章

★(1) 1～2節 エルサレム、神殿崩壊

★(2) 3～8節 空中再臨（携挙）のしるし

(3) 9～14節 大患難期前半のしるし

(4) 15～28節 大患難期後半のしるし

(5) 29～31節 地上再臨のしるし

(6) 32～35節 患難期を通過するユダヤ人キリスト信者への激励

(7) 36～42節 空中再臨（携挙）のタイミング

(8) 43～51節 " への備え

マタイの福音書 25章

(1) 1～31節 地上再臨への備え

(2) 31～46節 地上再臨直後のさばき

今回は大患難期前に起こることの中で、時系列(1)世界戦争（大戦）、イエス・キリストの終末の預言として語られた箇所

マタイの福音書 24・1～8

ルカの福音書 21・20～24

I. 神殿崩壊の預言 1～2 節

- 第一神殿 (ソロモン) はバビロンにより壊滅
- ★第二神殿 捕囚から帰還したイスラエル人が建てた
- 第三神殿 大患難期前か少なくとも大患難期前半に建てられる
- 第四神殿 千年王国において、主がお建てになる

- (1)第二神殿の壊滅はA.D. 70 ローマ軍がエルサレムに進軍包囲して成就
A.D. 135 エルサレム完全破壊、ユダヤ人たちは追放され、離散
以後A.D. 1948まで、流浪の民、民族はあっても国家なし

II. 弟子たちの3つの質問

- (1)神殿の崩壊がいつ起こるのか ルカ 21・20～24
- (2)(地上) 再臨のしるしは何か マタイ 24・29～31

★(3)世の終わり(終末)のしるしは何か

||
この世と来るべき世(御国)を区分する期間
「産みの苦しみ」

III. イエスの回答

- (1)世の終わりのしるしではないもの (どんな時代にもある現象)
 - ①偽キリストが現れ、人々を惑わす
 - ②戦争や戦争の噂が流布される(戦争:地域戦争)
- (2)世の終わりのしるし
 - ①世界大戦 (産みの苦しみの始まり)
 - ②世界大戦に付随して ①飢饉
②地震

IV. 歴史において成就

- (1)世界大戦 (第一次 1914年～
第二次 1940年～)
- (2)飢饉
 - ①1920年 中国で大飢饉
 - ②1921年 ロシアで大飢饉
 - ③1918～1919年 世界に疫病が蔓延 2300万人が死ぬ
- (3)地震
A.D. 63～1896 記録されている地震はわずか26件
1900年代～今日 地震件数は世界各地で激増

V. 結び

- (1)聖書と世界の歴史を知ることによって、時代を見分けることができるようになる 聖書を通して世界を觀、世界のできごとを通して聖書を觀る
- (2)その知性・感覚・判断力を養い導かれるのは聖霊のお働きである
- (3)20世紀に起こった二つの世界大戦は、今の私たちがすでに「世の終わり」「産みの苦しみの始まり」の地点に立っていることを示している
- (4)聖書なしに人間の勝手な解釈を施した終末觀に惑わされたり、うろたえないように、正しい情報と基準、冷静な判断力が必要
欺かれないよう、だまされないように